

★当たり前のことに感謝★



カレンダーもいよいよ最後の一枚を残すのみとなり、行く年を惜しみつつ、来る年を指折り数える師走となりました。彩とりどりの街路樹も葉を落とし、寒風が吹きすさぶ季節が到来します。保護者の皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。

この時期の風物詩としてすっかり定着してきた「今年の漢字」。日本漢字能力検定協会の主催で、第1回は阪神淡路大震災があった1995年でした。この年に選抜された漢字は「震」。以来本年で30回の節目を迎えます。1年前の2024年は何だったでしょう。答えは「金」。理由は政治の裏金問題、新紙幣の発行、金の価格高騰、パリオリンピックの金メダルラッシュ、佐渡金山が世界文化遺産に登録、などといったところです。ちなみに「金」は過去最多の5回選ばれています。

さて、2025年はどの漢字に決まるでしょうか。米（価格高騰）、熊（人的被害急増）、脈（大阪万博のミャクミャク）、猛（猛暑日数が最多）、熱（熱中症患者の搬送拡大）などと思いつくままに書いてみましたが、現時点での私の予想はズバリ「高」です。理由は3つあります。1つ目は米だけではなくあらゆるモノの値段が高くなったりしたこと。2つ目は今年も気温が極度に高い猛暑日が続いたこと。3つ目は日本初の女性首相が誕生したこと。高市早苗さんですね。果たして的中するでしょうか。皆さんなら何を今年の漢字にしますか。正式な発表は毎年12月12日の「漢字の日」の午後、京都の清水寺で行われます。大きな白紙に大書する、あの光景です。



サンタさんに逢いたいワン



このようにして1年をしみじみと振り返ることができるのは、ある意味幸せなことなのだと感じます。日常生活の中で特別な何かがなくても感謝したいことはたくさんあります。健康でいられること、ご飯を食べられること、思いを伝えられること、今日も生きていること。そうした当たり前のこと、一番感謝するべきありがたいことだと「気づく」ことが大切であり毎日の幸福に結びつくのだと思います。

11/15（土）の学校祭では、子供たちの頑張りに温かい声援やねぎらいの拍手を送っていただきありがとうございました。たくましく成長した子供たちの姿に、教職員一同、胸が「高」ぶりました。文責：寺沢 光明